（公財）中央果実協会
No.205

ペルー　チャンカイ港の開港によりアジア向け地域物流のハブに

FreshPlaza　2024年9月12日

チャンカイ港の開港が間近に迫り、ペルーは国際物流の主要なプレーヤーになると目されている。同港は、南米からのアジア向け輸出の輸送時間と物流コストを大幅に削減することを約束するインフラである。ペルー輸出観光促進庁（PromPerú）貿易促進部のサユリ・サキハマ・メレンデス次長は最近のインタビューで、このプロジェクトがペルーと南米の輸出の見通しをどのように変えるかを強調した。（以下「　」は同次長の発言）

11月に開港予定のチャンカイ港は、南北アメリカで最も近代的で100％自動化されており、ペルーから中国への直行便は輸送時間をわずか25日に短縮できる。「現在は、ペルーまたは南米の太平洋岸から上海に向かう輸出品は、到着までに約35日かかる。この新しい港によって、その時間は10日から12日短縮される。」ブラジルやアルゼンチンなど大西洋岸の国では、現在はアジアまで60日かかる輸送時間が丸1カ月短縮され、その差はさらに大きくなる。

現在の航路と主要港　　新しい航路による貿易の強化

左：現在の航路　チリ、ペルー、コロンビア、メキシコから日本、中国まで所要日数 35 日（赤：往路、青：復路）
中：現在の航路　ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチンからシンガポール、日本、中国まで所要日数 60 日（同）
右：新しい航路でアジアまでの輸送時間が 10～12 日短縮

アジアとの主要接続港であるペルーは、新しいハブの恩恵を受ける唯一の国ではない。チャンカイ港を利用して輸送時間を短縮できる他の南米諸国からの輸出も容易になる。「ブラジルとペルーを結ぶ大洋間高速道路などの陸路による相互接続は、ブラジルの産品がアジア市場により早く到達することを可能にし、この地域の他の港の代替となるだろう。」

チャンカイ港の最も注目すべき特徴の1つは、最先端の自動化であり、コンテナの積み下ろし時間を大幅に短縮する。「Cosco社（中国遠洋海運集団）が行った投資のおかげで、この港は上海で使用されているのと同様の技術を使用するため、以前は3時間かかっていた船からの荷下ろしが1時間未満でできる。」

さらに、ポストパナマックスとして知られる大型船を扱えるキャパシティがあり、より多くの貨物を輸送することができる。これは、青果物や加工品などの傷みやすい産品や、市場価値を維持するために目的地に迅速に到着する必要がある鉱物に関して大きな違いを生むであろう。

ペルー及び同地域への経済的影響は甚大である。輸送時間を短縮することで、ペルーと南米の産品はより早くアジアに到着するようになり、輸出業者は鮮度と配送速度を重視する市場で競争力を高めることができる。サキハマ氏は、チャンカイ港の操業開始により、南米地域の他の港に比べ、ペルーはアジアへの出荷において重要な競争優位性を獲得すると付け加えた。「新しい港湾インフラとこれまでに締結された22の自由貿易協定によって、ペルーは独自の優位性を有している。我が国を出発する産品は、より低い関税でアジア市場に到着する。」

サキハマ氏は、このプロジェクトが短期的にも長期的にも物流を変革すると強調した。見通しとしては、今後10年間で、ペルーは南北アメリカにおけるアジア向け出荷の主要な物流ハブとしての地位を固める。

ペルーはチャンカイ港とインフラの改善により、地域全体に利益をもたらし、輸出企業や物流サービスプロバイダーのために大きな機会を創出し、国際貿易の主要なハブとしての地位を確立する道をたどっている。